



*KITE SOCIETY BTK CONCERT*

KITE SOCIETY 第6回定期演奏会

'71. 3. 26 <金> PM6:00

長野県市民会館

賛助

すみれ会

長野高校合唱班

後援

長野市教育委員会

信越放送

信濃毎日新聞社

## PROGRAMME

### I 男声合唱組曲「柳河風俗詩」

- I 柳河
- II 紺屋のおろく
- III かきつばた
- IV 梅雨の晴れ間

### II 山田耕筰作品集

- I この道
- II 青蛙
- III 中国地方の子守歌
- IV あわて床屋
- V からたちの花
- VI 帰る帰る

### III 女声合唱組曲「遠い日のうた」

- I にげていく風
- II おはなし
- III せっせっせ
- IV ブランコ
- VI 小さい花
- VI 手をつないで
- VII ばあやの子守唄

### INTERMISSION

### IV MESSE SOLENNELLEより

- Kyrie
- Gloria
- Sanctus
- O Salutaris
- Agnus Dei
- Pie Jesu

### V 混声合唱組曲「水のいのち」

- I 雨
- II 水たまり
- III 川
- IV 海
- V 海よ

### <ごあいさつ>

三月もう残りわずか、信濃路の自然が、日一日と春を感じさせる今日この頃街には、新しい学校へ、また新しい社会へと希望に胸をふくらませた人々が、あふれております。

今宵は、皆様お忙しい中を、私達カイト・ソサエティ第6回定期演奏会においていただきまして、会員一同、心より御礼申し上げます。

長野高校合唱班を卒業し、全国各地に散った、我々グリーンメンが年に一度、こうして合唱を媒介にして、一同に会して開く定期演奏会も今年は6回をかぞえます。昨年の五周年記念演奏会をひとつのステップとして、新しいカイトの面を打ち出し、更に飛躍しようと努力してまいったつもりですが、この演奏会に接した皆様の忌憚のない御批判を賜りたいと思っております。まだまだ拙い我々の演奏ではございますが、最後までお聞きいただき、地理的・物理的制約をこえた合唱のすばらしさを感じとっていただければ、これにまさる幸はございません。

尚、今回の演奏会にあたり、すみれ会、および長野高校合唱班の賛助を仰ぎ、長野市教育委員会、信越放送、信濃毎日新聞社の後援をいただいております関係各位に深く感謝申し上げます。

カイト・ソサエティ会員一同

## I 男声合唱組曲「柳河風俗詩」

＜北原白秋・多田武彦＞

- I 柳河
- II 紺屋のおろく
- III かきつばた
- IV 梅雨の晴れ間

指揮：出水啓一朗

## II 山田耕筰作品集

＜福永陽一郎・林雄一郎編曲＞

- I この道＜北原白秋＞
- II 青蛙＜三木露風＞
- III 中国地方の子守歌
- IV あわて床屋＜北原白秋＞
- V からたちの花＜北原白秋＞
- VI 帰る帰る＜北原白秋＞

合唱：長野高校合唱班

指揮：山田邦彦

## 「柳河風俗詩」＜曲目解説＞

九州筑後に生まれた、北原白秋は、明治から大正・昭和を通じて、最高の叙情詩人と、うたわれております。そして、その白秋が彼の故郷「柳河」に対する限りない愛と、日本的抒情のあふれる手法で、詩いあげたものが、「柳河風俗詩」と呼ばれる一連の作品です。

今夜おくりする、男声合唱組曲「柳河風俗詩」は、この白秋の抒々しい詩に、多田武彦が曲をつけたもので、今では各グリークラブのメインレパートリーにもなっている程、よく親しまれている曲です。

「柳河」「紺屋のおろく」「かきつばた」「梅雨の晴れ間」と続く四つの詩と、それに見事な融和を見せる多田ブシの哀愁の中から、純日本的な香りを感じつつ、男声合唱特有のハーモニーの中にその情感を歌いこむことができればと思っております。

## ＜指揮者プロフィール＞

出水啓一朗

昭和43年度卒、現役時代は、ベースのパート・リーダーとして、その卓越した技術と指導力で大活躍、今年はいかたの指揮者として登場、既製の観念にとらわれない彼の感覚は期待するところが大きい。現在、立教大グリークラブに在籍中。

## 山田耕筰作品集＜曲目解説＞

毎回、賛助として得意の曲目をひっさげてステージに立ってくださっている長野高校合唱班は今回、日本の代表的作曲家の一人山田耕筰の作品をとり上げました。山田耕筰は三木露風、北原白秋らの詩による多くの歌曲を作曲し、それらは彼が他界した今日もなお、その歌心は日本人の胸に生きています。彼の作品はどれも我々の日常生活に直接通じる曲が多く、我々の心の奥まで伝わってくる郷愁を感じることができます。今回は彼の歌曲から北原白秋の詩で「この道」「あわて床屋」「からたちの花」「帰る帰る」、三木露風の詩で「青蛙」、それに「中国地方の子守歌」を演奏致します。いずれも親しみ深い曲ばかりです。どうか、歌いながらでもお聞き下さい。

## ＜長野県高校合唱班プロフィール＞

クラブ活動低滞の傾向は最近ますますその色を濃くしているが、長野高校合唱班でもその例外ではない。現在班員が20名と数年前と比べると、かなり少なくなっている。しかし彼らのだれもが歌の大好きな輩ばかり。合唱技術の向上もさることながら、それ以上に合唱を楽しむことに重点をおいて、毎日の練習に励んでいる。そしてこのような雰囲気は以前より増し、なごやかに活動している彼らである。

## 「遠い日のうた」＜曲目解説＞

阪田寛夫、大中恩のコンビによる作品は常に我々をして魅了させる力をもっている。その源はそのコンビによる新しい試みが我々に迫り、そして同化されているからかもしれない。この組曲「遠い日のうた」もこのおふたりによる女声合唱のための二つめの作品であり、七曲の小品により構成される内容は幼い日の思い出をあざやかに表現している。とにかく難解な曲が大曲としてとりあげられ易い風潮の中でこの作品にただよくなつかしい香りは、それをまっこうから否定している。それでいて我々に常にいどむ何かを内在させ、ファイトをかりたてるのである。「にげていく風」から始まる一連のうたは無理なく、無駄なく時間をうめ、時間を読みがえらせる。その楽しさ、素直さがこの曲の信条であるような気がする。歌うものの立場でかかれたこの作品、こよい参助して下さるすみれ会のうたごころに期待していただきたい。

## ＜すみれ会紹介＞

会員は長野西高等学校合唱班のO.Gで構成され、昭和41年に発足しました。実際の活動は昭和44年からで、週一回練習を行っています。高校時代のレパートリーに加えて、大中恩、中田喜直の作品を中心に歌っています。現在のメンバーは、数年前長野県の合唱コンクールで常に上位を占めていた時代の合唱班員を中心に一般から募った会員で構成されています。今回は長野西高等学校合唱班に応援をお願いして、ステージに立って頂くことになりました。

これを機会に、今後一層、後輩との交流を深めてすみれ会がより発展することを願う次第です。

## Messe＜曲目解説＞

合唱運動が盛んになりはじめた、19C後半フランスに、オルフェオンという男声合唱団協議会がありました。このオルフェオンの会長でたったAlbert・Duhaupas＜アルペール・デュオウパ＞が、そのパリ大会のためにと作曲したのが今夜演奏いたしますMESSE SOLENNELLE＜壮厳ミサ曲＞です。彼は、フランスのアラス大寺院のオルガン兼合唱指揮者でもあった人で、その和声の処理法には、目をみはるものがあります。曲は“Kyrie.”“Gloria.”“Credo.”“Sanctus.”“OSalutaris.”“AgnusDei.”“DomineSalvum.”“PieJesu”の8曲から成り、歌詩は通常用いられるミサ典礼文からとられております。今夜は全曲の中から、6曲をえらんでおくり致しますが、宗教歌のもつ、その重厚な響きと、敬虔な祈りとを、感じとっていただけるよう、歌います。カイトの定演では、はじめて取り組む本格的な宗教曲をじっくりお聞き下さい。

## ＜指揮者プロフィール＞

第3回定期演奏会には長野高校合唱班の指揮をして、シューベルトの作品を振りました。会長の堀内征治氏の実弟、兄と同じく指揮者として頑張っています。統率力と実力には定評がありますが、その反面、末っ子の甘えん坊の面も持っています。この定演の第一功労者で、今年には東京支部の総務をも務めました。現在、青山学院大の混声合唱団でパートマスターとして活躍中。

## III 女声合唱組曲「遠い日のうた」

＜阪田寛夫・大中恩＞

- I にげていく風
- II おはなし
- III せっせっせ
- IV ブランコ
- V 小さい花
- VI 手をつないで
- VII ばあやの子守唄

合唱：すみれ会

指揮：堀内征治

伴奏：篠原真木子

## IV MESSE SOLENNELLEより

＜Albert Duhaupas＞

- kyrie
- Gloria
- Sanctus
- O Salutaris
- Agnus Dei
- Pie Jesu

指揮：堀内 篤

## V 混声合唱組曲「水のいのち」

〈高野喜久雄・高田三郎〉

- I 雨
  - II 水たまり
  - III 川
  - IV 海
  - V 海よ
- 合唱：カイト・ソサエティ  
すみれ会  
長野高校合唱班  
指揮：山本 昇  
伴奏：篠原真木子

### 「水のいのち」〈曲目解説〉

ここ長野市で昨年、この「水のいのち」の作曲者、高田三郎氏が講演しましたこともあって、今まさに高田三郎ブームといったところ。彼は演奏家であり、作曲家でもあるので、その作品は過去何度も改訂され、より原詩の発想を生かして演奏されるように補筆されています。この「水のいのち」は1944年に作曲されて以来9回も改訂されています。それに彼は作品のどれにも非常に細かく演奏上の注意を付しております。それだけ彼が演奏家としての要所をわきまえているからでしょう。

この「水のいのち」には内容的にも技術的にも、彼の前の作品に比して「うたえて、ハモれる」という我々合唱を楽しむ者の要求を十分に満たす、ある種の親近感があるようです。しかも、水の流れをそのまま人生航路に結びつけて考えられ、その内面性も十分に理解できることから、詩の方からものはいり易く思われます。

今、日本でこの作品を演奏していない混声合唱団はないといってもいいぐらいです。中には指揮者がより完成度の高い演奏をと、競い合っているほどです。まさに混声合唱曲の筆頭にあげられるにふさわしい人気といえそうです。

高田三郎氏の言葉、「私はいつも作曲家も、演奏家も、音楽それ自体に対しては、謙虚でなくてはならぬが、また勇気も持たなくてはならないと思っている者である」には日本の作曲家の一人としての気概に満ちたものがあります。

「雨」「水たまり」「川」「海」「海よ」の五曲、どうか後部に載っている詩の意味もおふくみいただきながらお聞き下さいませ。

### 〈指揮者プロフィール〉

山本昇先生

長野高校の音楽班を一手にひきうけておられる音楽担当の一教師として先生をみると、先生ほど厳しく徹底した音楽教育をなさる方は他になく、カイトの顧問、一会員としての先生は頼もしく、かつ親しみ易い好人物でおられます。昨年の先生は御多忙なことに、内はカイト、長野高校O. Bの吹奏楽、管弦楽の定演の指揮に、外はSBCアンサンブル、コール・ニルバーナ、D. J等数々の方面へ幅広い活躍をなさって、私達は総じて目を見はっております。今年もこの定演を皮切りに、多くのお仕事をなさる先生に、毎回私達のためにメインステージの指揮、御指導されることに対して会員一同、感謝の念にたえない心境でおります。こんな山本先生にいつまでも信州の音楽家として、音楽教育推進に御尽力下さることを私達は願ってやみません。

### 伴奏者プロフィール

ピアニスト“真木ちゃん”とカイトとのおつきあいは、なかなか深いものがある。第四回定演にやはりピアニストとして賛助出演を願い、今回はカイト初めての試みである混声のステージのピアノを担当していただくこととなり、合時にすみれ会の常任ピアニストである彼女が以前よりカイトの熱心な理解者であったといえ、上記の意味がおわかりいただけることと思う。

長野西高等学校を卒業後、武蔵野音大にピアノを専攻、今春卒業し、ふるさとの長野で再び音楽の勉強を深めつつ後進の指導にもあたることになっている。今晚の彼女の活躍もさることながら今後の健闘を大いに期待したい。

長野高校を卒業し、合唱班員が新しい出発をして互いに離れてゆく、共に歌った仲間達とこのまま別れることはなんとも心寂しい。また集まって月一度の演奏会を持つようじゃないかという主旨で、昭和40年に発足したカイトは今年ではや7年目をむかえたのであります。女房持ちの彼、マイベビーをカイト2世にとニヤけたあるパパ、大学を卒業して社会人の厳しい道にたどり始めたあの人、この人、又マージャン、パチンコと女性にうつつをぬかしている大学生諸君もカイトの仲間、楽しい我らであります。そんな個々の社会の一員として参加し、またここにもう一つのより強い結びつきを誇る集団「歌うとんびの会」は長野、東京両支部を中心に、全国各地にまたがっており、東京支部では去年より毎日曜に練習を行っております。

故郷に帰ってきて歌う、このよろこびは何にもまさった、我々の幸です。遠く離れた会員に送る会報、会費の納入、そして練習。これら苦勞も歌声にけし飛んで、またくる来期に夢をたくす、歌を通じて結びついている仲間こそ真の友であることは会員皆の信ずるところです。

教育県として自他共に認めているものの、この長野県、音楽の理解が東京、近県に比べてまだまだ遅れています。歌は心の太陽、すさんだ社会、敵対しあつた学生達をつなぐ唯一のきづなです。信州にももっと多くの合唱団体を、カイトのような暖かい集いをつくって欲しいと思うのです。カイトも7年目とはいえ、まだたくさん課題を内にかかえています。それらを一つ一つ乗り越えて、すばらしいハーモニーを、男の心意気をひびかせていきたいと願っております。

我々カイトソサエティに今後共より一層の御期待と御支援をお願い致します。

昭和40年	発足	
41年4月3日	第1回定期演奏会	「月光とピエロ」他
42年4月1日	第2回定期演奏会	「枯木と太陽の歌」他
43年3月29日	第3回定期演奏会	「富士山」他
44年3月30日	第4回定期演奏会	「雨」他
45年3月29日	第5回定期演奏会	「山に祈る」他

その他、毎年、夏期、冬期の総会、練習。

カイトのメンバーの中で何人かが長野高校合唱班の夏期合宿につき合っ心おきなく先輩風をふかせるのも、これまた毎年のならわしとなっている。

## カイトのあしあと

# 水のいのち

高野喜久雄 詩

## I 雨

降りしきれ 雨よ  
降りしきれ  
すべて  
立ちすくむものの上に  
また  
横たわるものの上に

降りしきれ 雨よ  
降りしきれ  
すべて  
許しあうものの上に  
また  
許しあえぬものの上に

降りしきれ 雨よ  
わけへだてなく  
濁れた井戸  
踏まれた芝生  
こときれた梢  
なお ふみ耐える根に

降りしきれ  
そして 立ちかえらせよ  
井戸を井戸に  
庭を庭に  
木立を木立に  
土を土に

おお すべてを  
そのものに  
そのものにて

## II 水たまり

わだちの くぼみ  
そこの ここの  
くぼみにたまる  
水たまり  
流れるすべも めあてもなくて  
ただ  
だまって

たまるほかはない  
どこにでもある 水たまり  
やがて  
消え失せてゆく  
水たまり  
わたしたちに肖ている  
水たまり  
わたしたちの深さ  
それは泥の深さ  
わたしたちの言葉  
それは泥の言葉  
泥のちぎり  
泥のうなずき  
泥のまどい

だが  
わたしたちにも  
いのちはないか  
空に向う  
いのちはないか  
あの水たまりの にごった水が  
空を うつそうとする  
ささやかな  
けれどもいちぢないのちはないのか

うつした空の  
青さのように  
澄もうと苦しむ  
小さなころ  
うつした空の  
高さのままに  
在ろうと苦しむ  
小さなころ

## III 川

何故 さかのぼれないか  
何故 低い方へゆくほかはないのか  
よどむ淵 くるめく渦のいらだち  
まこと 川は山にこがれ  
きりたつ峰にこがれるいのち  
空の高みにこがれるいのち  
山にこがれて 石をみごもり  
空にこがれて 魚をみごもり

さからう石は 山の形  
さかのぼる魚は 空を耐える  
だが やはり 下へ下へと  
ゆくほかはない 川の流れ

おお 川は何か  
川は何かと問うことを止めよ  
わたしたちもまた  
同じ石を 同じ魚を みごもるもの  
川のこがれを こがれ生きるもの

## IV 海

空をうつそうとして  
波一つなく 風ぐこともある  
岩と混じれなくて  
ひねもす  
たけり狂うこともある

しかし  
凡ての川はみな  
そなたをさして常に流れた  
底に沈むべきものは沈め  
空にかえすべきものは  
空にかえした

人でさえ 行けなくなれば  
そなたを さしてゆく  
そなたの中の 一人の母をさしてゆく  
そして そなたは  
時経てから 充ち足りた死を  
そっと岸辺にうち上げる  
みなさい  
これを 見なさい と云いたげに

## V 海よ

ありとある 芥  
よごれ 疲れはてた水  
受け容れて  
すべて 受け容れて  
つねに あたらしくよみがえる  
海の 不可思議

休まない 汀

波の指 白い指 くりかえし  
うまず くりかえし  
億の砂 億の小石を  
数えつづける  
海の 不可思議

くらげは 海の月  
ひとでは 海の星  
海螢 海の馬 空にこがれ  
あこや貝は 光を抱いている  
そして 深く暗い 海の底では  
下から上へ  
まこと 下から上へ  
雪は  
白い雪は 降りしきる

おお 海よ  
たえまない 始まりよ  
あふれるに みえて  
あふれる ことはなく  
終るかに みえて  
終ることもなく  
億年の むかしも いまも  
そなたは  
いつも 始まりだ  
おお 空へ  
空の高みへの 始まりなのだ

のぼれ のぼりゆけ  
そなた 水のこがれ  
そなた 水のいのちよ

たとえ 己の重さに  
逆いきれず  
雲となり  
また ふたたび降るとしても

のぼれ のぼりゆけ  
みえない つばさ  
いちぢな つばさ あるかぎり  
のぼれ のぼりゆけ  
おお

# 柳河風俗詩

北原 白秋 詩

## I 柳河

もうし もうし 柳河じゃ 柳河じゃ  
銅の鳥居を見やしゃんせ  
欄干橋を見やしゃんせ

(馭者は喇叭の音をやめて

赤い夕日に手をかざす)

薊の生えたその家は その家は  
舊いむかしの遊女屋  
人も住まはぬ遊女屋

裏のBANKOに居る人は……

あれは隣の継娘 継娘

水に映ったそのかげは そのかげは

母の形見の小手鞠を 小手鞠を

赤い毛糸でくくるのぢゃ

涙片手にくくるのぢゃ

もうし もうし 旅のひと 旅のひと

あれ あの三味をきかしゃんせ

鳩の浮くのを見やしゃんせ

(馭者は喇叭の音をたてて

赤い夕日の街に入る)

夕焼け小焼け

明日天気になあれ

(注) BANKO 縁台

## II 紺屋のおろく

にくいあん畜生は紺屋のおろく

猫を擁へて夕日の涙を

知らぬ顔してしゃなしゃなど

にくいあん畜生は筑前しぼり

華奢な指先濃青に染めて

金の指輪もちらちらと

にくいあん畜生が薄情な眼つき

黒の前掛 毛織子かセルか

博多帯しめ からころと

にくいあん畜生と 擁えた猫と

赤い夕日にふとつまされて

瀉に陥って死ねばよい

ホンニ ホンニ……

## III かきつばた

柳河の

古きながれのかきつばた

昼はONGOの手にかをり

夜は萎れて

三味線の

細い吐息に泣きあかす

(鳩のあたまたに火ん点いた

潜んだと思うたらちい消えた)

(注) ONGO 良家の娘

## IV 梅雨の晴れ間

廻せ 廻せ 水ぐるま

けふの午から忠信が

隈取紅い しゃっ面に

足どりかろく 手もかろく

狐六法踏みゆかむ

花道の下 水ぐるま

廻せ 廻せ 水ぐるま

雨に濡れたる古むしろ

円天井のその屋根に

青い空透き 日光の

七宝のごときらきらと

化粧部屋にも笑ふなり

廻せ 廻せ 水ぐるま

梅雨の晴れ間の一日を

せめて楽しく浮かれよと

廻り舞台も滑べるなり

水を汲み出せ その下の

葱の畑のたまり水

廻せ 廻せ 水ぐるま

だんだら幕の黒と赤

すこしかかげて なつかしく

旅の女形もさし覗く

水を汲み出せ 平土間の

田舎芝居の菲畑

廻せ 廻せ 水ぐるま

はやも星から忠信が

紅隈とった しゃっ面に

足どりかろく 手もかろく

狐六法踏みゆかむ

花道の下 水ぐるま

会長：堀内征治

会長という名誉職にありながら、長野支部のリーダーとして雑務を細々とひきうけている。高校時代からの合唱きちがい、今では高専の合唱班・吹奏楽班・それにすみれ会の指揮者として、幅広い音楽ばかへと変貌している。現在長野高専教官。

副会長：田中不二夫

カイト創立以来、カイトのために東奔西走している。今年のカイトの監査役として、じっとニラミをきかせている。カイトにとっては、なくてはならないブレンである。

東京支部長：大島久仁孝

カイトの若手の旗頭として、もち前の繊細さで、会員を導いている。

現在、早稲田大混声合唱団で中堅として活躍。

総務：堀内 篤 (省略)

会計：出水啓一朗 (省略)

渉外：永井健夫

練習の会場とりから楽譜の調達まで、大きな体をうごかして渉外の仕事をしている。

悪い地理的条件の下で、練習には皆勤のファイトマンである。現在、中央大法学部在学中。

渉外：上石隆雄

チケット関係、現役との連絡役を担当、東京本部でも、会員相互の連絡役として活躍し、カイトの潤滑油である。

現在、東京経済大に在学中。

長野支部総務：田中武司

昨年、一昨年と総務を、そして今年は、長野支部の総務をひきうけ、カイトのために精力的に動いている。彼なしでは現在のカイトはあり得ないといったカイトの中心的存在。

長野支部会計：松本 進

昨年にひきつづき、金集めを担当。

第五回定演では、指揮者をひきうけ、カイトに対してすごいファイトをみせている。

現在信州大の男声合唱団コリフェューエで活躍中。

# えんのしたのちからもち達

## <役員紹介>

### <Kiteとは？>

Kite [kait] とび 凧 etc

Society [səsaɪəti] 交わり 会 etc

英和辞典にはこのようにでています。

カイト・ソサエティ、つまり「歌うとんびの仲間」。とんびは長野高校の校章「そもそも神武天皇、天下平定のおり……」なんてヤボなことは申しますまい。信州の空高く旋回しているとんびです。ピーヒョロロ!

# カイトの仲間たち

※( )内の数字は卒業年度

顧問	宮川英夫(41)	高橋守(44)
山本昇	六川達郎(41)	久保田裕(45)
<b>Top Tenor</b>	大島久仁孝(42)	三ツ木辰己(45)
小嵐正昭(36)	長田邦明(42)	
十代田建一(36)	丸田義晴(43)	<b>Bass</b>
田幸新造(39)	内田修(44)	霜鳥十三男(36)
金丸文雄(40)	桜井清隆(44)	丹下泰夫(37)
浜田冽(40)	柴田春喜(45)	中村徹(37)
松橋文幸(40)	渡辺文博(45)	田中武司(39)
真鍋盛二(40)		田中不二夫(39)
大槻周一(41)	<b>Bariton</b>	夏目雄平(39)
宮下莊治郎(41)	今井勝男(36)	福島稔(39)
佐藤俊介(41)	大西修(37)	三島毅(39)
細谷清(42)	小嵐正治(38)	宮川裕(40)
松本進(42)	堀内征治(38)	北村和夫(41)
小川博(42)	和田忠久(38)	佐藤豊(41)
上石隆雄(43)	加藤光男(39)	高木直行(41)
堀内篤(43)	丸山正一(39)	宮沢孝夫(41)
山下春雄(43)	有田耕平(40)	石坂幸一(42)
山西潤一(43)	吉村恭規(40)	丸山光夫(42)
久保隆志(44)	杵淵正明(41)	南沢純一(42)
黒岩克彦(44)	丸山真一(41)	鎌倉晴久(43)
岡部健一(45)	高木房雄(42)	出水啓一朗(43)
竹内茂喜(45)	田原茂(42)	永井健夫(43)
吉川博(45)	久保田利通(43)	高橋守男(44)
	倉科幸信(43)	竹重千文(44)
<b>Second Tenor</b>	菱田雅晴(43)	西沢善光(44)
須田勝弘(37)	伊藤幸雄(44)	平林繁明(44)
茂木晃(37)	海沼利夫(44)	塚越憲二(44)
福島遺和(39)	金子健一(44)	石井淳(45)
仲田章(41)	小林義昌(44)	西沢恒幸(45)